

平成 30 年度事業評価について (平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月)

1. 平成 30 年度の外部評価員による事業評価は、次の通りであった。

(1) 外部評価員 6 名

伊藤 制子氏	東邦音楽大学講師・音楽学
稲村 太郎 氏	公益財団法人セゾン文化財団 プログラムオフィサー
恵良 隆二 氏	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 専務理事
桂 真菜 氏	舞踊・演劇評論家、 早稲田大学演劇博物館招聘研究員
佐藤 良子氏	一般財団法人 地域創造
竹内 孝宏 氏	青山学院大学総合文化政策学部 教授

(2) 評価方法

○重点文化事業スケジュール[表 1]を中心に、外部評価員が実地見学を実施し、事業評価シート（個票）に個別事業の評価を記述。

○年度を通した総合的な評価として、個別事業評価等を参考に事業評価シート（総合）に評価を記述。その書面評価に加えて、外部評価員と職員とが出席する「事業評価会議」を開催し、意見交換や議論の上、当該年度の事業評価を総括。

(3) 評価結果（概略）

○個別事業評価数（カッコ内は、H29）

県民ホール	11 事業 26 シート	(9 事業 12 シート)
芸術劇場	24 事業 49 シート	(19 事業 25 シート)
音楽堂	4 事業 11 シート	(14 事業 25 シート)
計（延べ）	39 事業 86 シート	(41 事業 62 シート)

○事業評価シート（総合）

提出 6 名提出

○事業評価会議 令和元年 9 月 5 日（木）

出席評価員 4 名

出席財団職員 副理事長、専務理事、理事（県民ホール館長、芸術劇場館長）、
担当職員、事務局

(4) 評価結果 (概要)

<p><平成 30 年度重点テーマ></p> <p>「3 館の文化事業ラインナップの達成度 (指定管理提案への対応)」について</p> <p>3 館の文化事業ラインナップが、指定管理提案等のミッションに対してどの程度達成し、成果を上げてきたか検証する。</p> <p>また、3 館持ち回りで企画制作する芸術監督プロジェクトと、3 年間継続した合同オープンシアターの成果も併せて扱う。</p>		
<p>3 館文化事業ラインナップ</p>		
<p>県民ホール文化事業</p>	<p>個別の目標や施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模舞台芸術の上演が可能な大ホールを活用し、国内外の公共劇場との共同制作による国内トップレベルのオペラ創作 ・親しみやすいオペラ公演や関連する普及事業の実施 ・小ホール、ギャラリーでのジャンルを超える先駆的な事業 ・幅広い世代が文化芸術に親しみを感じることができる機会の提供
	<p>○オペラ・バレエを主軸に、芸術創造、教育普及、人材育成と層が厚く、バランスよくできている。目的も達成できている。</p> <p>○前回の改修休館時から継続して実施している県域巡回事業は、引き続き戦略的な事業展開が望まれる。</p> <p>○観客層の高齢化に対し、将来の観客づくりに向けた取り組みが求められる。</p> <p>○県内での文化施設ネットワークの構築を目指すことや、どういうポジションを県民ホールが担うのか検討すべき時期である。</p>	
<p>芸術劇場文化事業</p>	<p>個別の目標や施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・創造型劇場としての高度な機能を生かして、演劇、ミュージカル、ダンス等のオリジナル作品の創造、発信に力を入れる ・舞台芸術分野の国際交流・国際共同制作に積極的に取り組む ・県が文化政策として推進するマグカル事業に対し、協力を行う ・県域の演劇団体と連携した演劇フェスティバルを開催するなど、県民の創造活動の支援にも積極的に取り組む
	<p>○演劇界において、主導的な劇場として評価を高めていることを高く評価する。</p> <p>○創造型劇場のコンセプトを明確に維持することを望む。</p> <p>○実績のある劇作家・演出家から若手まで、また、主催、提携公演と多層的にプログラミングされている。</p> <p>○県内外劇場との共同制作を通じて、日本の劇場全体のレベルアップを期待する。</p> <p>○人材育成事業では、全国に向けてだけではなく、地域との関連も視野にいれることを望む。</p> <p>○観客の多様性に目を向け、どのような客層にアプローチできているかを検証する必要がある。</p>	

音楽堂文化事業	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> ・木のホールの伝統を次の世代へ継承し、神奈川における音楽文化の活性化に貢献する ・音楽堂が持つ優れた資産を最大限に活用した事業を実施する。 ・上質な音楽を心から堪能できる場として、公演を実施し、同時に、県民の音楽芸術活動の拠点としてこのホールを引き続き活かす ・「子ども・青少年への音楽体験の提供」の成果に基づき、新しい企画や教育プログラムを開発し、次の世代に音楽の豊かさを伝える
		<p>○教育的プログラムは、他にはなかなかないオリジナルのプログラムといえる。</p> <p>○横浜能楽堂の協力による伝統芸能を盛り込んだプログラムを評価する。今後、日本人のみならず、海外の人も参加できるような催しになることを期待する。</p> <p>○他ホールでの公演など休館中に得た実績を生かし、今後も戦略的な事業展開が望まれる。</p> <p>○改修を経た音楽堂の前川建築をよりいかに公演事業に期待する。</p> <p>○アウトリーチ事業は、音楽堂には重要な一つの柱である。今後の実施方法、位置づけについて、専門家や県民の意見を聞き、改めて検討する時期といえる。</p>
3館合同プロジェクト		
		<p>○3館がそれぞれの個性と技術を生かしながら、つながって作品を作っていることが神奈川の特徴を作り、よい成果を生んでいる。</p> <p>○「芸術監督プロジェクト」は、新しい芸術表現を探求する革新性の高い取り組みが行われている。良質な作品となっている。</p> <p>○「オープンシアター」は、3館のまとまりと多様性への取り組みをみせることができおり、継続すべき。</p> <p>○「オープンシアター」では、多言語対応がなされているが、居住する外国人にとっては、言語以外にもハードルがあるのではないかと思われその検討が必要。</p> <p>○3館で3年間継続してきたが、内容の連続性が見えにくく、観客に「3館合同」で取り組んでいることを印象付けることに成功しているか検証する必要がある。</p>

施設維持管理運営事業		
県民ホール	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> ・快適な会場環境の創出のための適切な施設の維持管理 ・改修工事による休館の確実な情報提供とサービス向上 ・施設のバリアフリー、ユニバーサルデザイン化 ・県民のニーズに応える貸館事業
	<p>○休館後の情報提供、サービス向上は、利用者が確実に戻ってきていることからできていると認識する。</p> <p>○極めて高い利用率は営業努力が伺える。</p> <p>○一方で高い利用率は、スタッフの負担、安全性、施設維持管理について懸念される面もあり、知見や経験を生かし設置者へ提案し、理解を得ることが望まれる。</p> <p>○バリアフリーやユニバーサルデザイン化をハード、ソフト面併せた取り組みは良い。今後も継続することが必要。</p> <p>○防災、防犯訓練やマニュアルの見直しなど、引き続き十全に備えることを望む。</p>	
芸術劇場	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ロングラン公演により、神奈川の舞台芸術振興と普及に寄与し、地域の賑わい作りに貢献する ・快適な会場環境の創出とスムーズな創造活動のための適切な維持管理運営 ・鑑賞サポートなど、ハードとソフト面での外国人・障がい者等の来館者対応の推進
	<p>○ロングラン公演の計画的・継続的な誘致による利用料収入、入場者数、利用率の目標値を上回る結果を高く評価する。</p> <p>○KAATのブランドを生かした劇団四季以外のロングラン公演の可能性にも期待する。</p> <p>○高い利用率、防犯、防災について、上記県民ホールと同様の課題がある。</p>	
音楽堂	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> ・県と密接に連携し改修工事対応を行う ・再開館以降の利用者に不便をきたさぬよう着実に利用受付業務を行うとともに、再開館後も引き続き高い利用率を維持するよう利用者サービスの向上に取り組む ・障がい者および外国人のための情報提供及び館内の案内表示等の改良策を研究する
	<p>○前川建築をいかした丁寧な改修が行われ、それをいかした見学ツアーを具体化したことを評価する。</p> <p>○紅葉ヶ丘5館連携の取り組みを評価し、今後の発展に期待する。</p> <p>○インテリアデザインと建築デザインが連動している音楽堂をアピールし、そのファン由来館者が増えることで、一層よい空間になるだろう。</p> <p>○改修の評価を、モニタリングやアンケートにより調査することが必要だろう。</p>	

その他共通業務		
芸術文化に関する情報の収集提供	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化に関する情報を発信し、幅広い県民が芸術文化に親しみを感じられるよう内容を充実する
		<ul style="list-style-type: none"> ○広報活動は全体としてバランスよく行われている。 ○現在の社会においては、観客のクラスターが異なることが明確となっているため、広報戦略は必ずしも3館で統一する必要はない。 ○SNSについては、より一層、ホールやアーティストが身近に感じられるよう内容となるよう工夫すべき。 ○広報誌は、専門家、来場者の意見が両方あるので、紙面にも双方向性があるほうがよい。
神奈川メンバーズの運営	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> ・チケットかながわの安定した運営及び団体販売等の促進 ・インターネット予約システムが安定稼働するよう整備維持 ・高齢者への丁寧な対応など、利用者の立場に寄り添ったサービスを提供し、利用者満足度を向上させる ・ウェブサイトの多言語化に取組み、インバウンド対応を推進する。
		<ul style="list-style-type: none"> ○海外から顧客を獲得することを視野に入れるべき。 ○休眠会員が多くなっている傾向がどこにもある。会員制度の再考も必要な時期かもしれない。
資金調達活動	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> ・資金調達活動として、文化庁等からの補助金・助成金の確保に積極的に努める ・賛助会員制度（寄付金）の新規会員獲得のため、法人、個人の方々に向け方策を実施する ・インターネットを活用した寄付の受け入れを推進し拡大を図る ・個別協賛金や、広告出稿等の幅広い支援を働きかける
		<ul style="list-style-type: none"> ○文化庁の「劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業」に採択されるなど、地域の中核的役割をもつと国から評価されていることは、高く評価できる。 ○ファンレイジングは、社会課題解決の取り組みをどのように伝えていくかが課題となる。

全体
<ul style="list-style-type: none"> ○事業を行っていくうえで、評価のフレームワークを作り、自分たちの評価軸、評価指標を作り、それに対し、データを整え、示していくことが必要。 ○神奈川では実験的な表現に触れられるということが、ひとつのブランドでもあり、それを手に入れるよう取り組むことを期待する。 ○社会、県民に対し、伝達力を持ち、説明を行う努力を続ける必要がある。

[表 1] 重点文化事業スケジュール

3館合同プロジェクト	6月2日(土) ～3日(日)	オープンシアター2018 (会場:県民ホール、KAAT)
芸術監督プロジェクト	平成31年 3月9日(土) 10日(日)	一柳 慧×白井 晃 神奈川芸術文化財団芸術監督プロジェクト「Memory of Zero」
県民ホール	10月20日(土) 21日(日)	共同制作オペラ ヴェルディ作曲「アイーダ」
	12月17日(月) ～平成31年 1月19日(土)	5 Rooms II けはいの純度 (現代美術)
	4月27日(金) 5月25日(金) 7月20日(金) 8月24日(金) 10月26日(金) 11月30日(金) 平成31年 1月18日(金)	オルガン・プロムナード・コンサート (いずれか1回)
KAAT	8月18日(土) ～26日(日)	KAAT キッズ・プログラム2018 「グレーテルとヘンゼル」
	9月28日(金) ～10月14日(日)	白井晃演出「華氏451度」
	12月12日(水) ～24日(月休)	杉原邦生演出「オイディプス王」
音楽堂	8月23日(木)	アフタヌーン・コンサート 山田和樹/東京混声合唱団 in 能楽堂
	8月12日(日)	三ツ橋敬子の「新♡夏休みオーケストラ!」 in 横須賀 ～みんなでラブラブ! 編～